

<参考> 講師の略歴、講演概要

近藤 誠司（こんどう せいじ）氏

関西大学社会安全学部 准教授

20年間、NHKのディレクターとして災害報道に従事、現在、関西大学社会安全学部准教授。人と防災未来センター・リサーチフェロー。京都大学防災研究所非常勤講師。京都大学大学院情報学研究科博士後期課程指導認定退学。博士（情報学）。NHKスペシャル『メガクエイク 巨大地震』で科学技術映像祭・内閣総理大臣賞を受賞。主な著書に『ワードマップ 防災・減災の人間科学 いのちを支える 現場に寄り添う』（新曜社、2011）など。



（講演概要）命を守る災害情報～巨大災害に立ち向かうために～

リスク社会が到来して久しいといわれる現代日本において、情報が果たす役割は増大するばかりです。自然災害を例にとってみれば、①危難が迫る緊急時に伝達される予警報や避難勧告等の情報、②復旧・復興期に、被災地・被災者を支援するために共有される情報、そして③平素、防災・減災の取り組みを推進するために活用される被災想定やマニュアル等の情報…。どの局面においても、「災害情報」は、いわば“命綱”となるものと言えます。しかし情報は、ただそこにあるだけでは役に立ちません。これを「生かす」には、どうすればよいのでしょうか。「リアリティ」という概念をキーフレームとして、再考してみましよう。

稲垣 文彦（いながき ふみひこ）氏

公益社団法人中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター長

2005年5月、地域復興のための中越復興市民会議を創設、事務局長に就任。その後、（公社）中越防災安全推進機構復興デザインセンター長として地域復興支援員の人材育成等に従事（2008～2014）。また集落支援員や地域おこし協力隊等のネットワーク「地域サポート人ネットワーク全国協議会」の設立に尽力。中山間地域の過疎化、高齢化対策としての集落支援員・地域おこし協力隊、東日本大震災からの復興対策としての復興支援員の人材育成等を担当。2015年4月より、震災アーカイブス・メモリアルセンター長に就任（現職）、また柏崎市協働のまちづくり専門官に就任（兼務）。主な著書、「震災復興が語る農山村再生 地域づくりの本質」（コモンズ、2014）など。



（講演概要）住民自らでつくる安心社会

災害は、社会のひずみを顕在化させます。新潟県中越地震では、地方の過疎化・高齢化の課題が顕在化しました。「人口減少社会の扉を開けた地震」といえます。人口減少社会を迎えた我が国では、都会でも、高齢化の課題が顕在化しつつあります。また、各地で災害が多発し、災害に対する不安も高まっています。このような将来の不安とどのように向き合えば良いのでしょうか。中越地震の被災地では、住民が主体的に参加するまちづくりによって安心な社会づくりが進められています。安心な社会をつくるには住民の当事者意識が欠かせません。それではどのように当事者意識をつくりだせば良いのでしょうか。中越地震からの復興を事例に皆さまと一緒に考えます。